

義務教育学校における特設教科の実践 ～社会参画意識の育成を目指す「ツル科」～

出水市立鶴荘学園 教諭 小菌 博臣

はじめに

世界有数のツルの越冬地として知られる出水市にある本校は、平成29年4月に県内で最初に開校した義務教育学校です。毎年、本校と高尾野中学校の生徒が中心となってツルの羽数調査を実施しており、その結果は公式羽数として世界に向けて発信・公表されています。標題にある「ツル科」とは、義務教育学校に特設が認められている本校独自の教科であり、「地域貢献・社会参画」を目標とする探究的な学習を主軸とした教科です。9年間の系統性や他教科との関連を図った指導計画を工夫し、効果的な単元開発に取り組んでいます。

実践の内容

本校の後期課程のツル科は、7年生28時間、8年生30時間、9年生29時間の計87時間で構成されています。7年生では課題設定と班編成、8年生では情報の収集、整理・分析、9年生ではまとめ・表現を行います。生徒は、地域と関連付けた班名をつけ、学習活動に取り組みます。ここでは、8年生における各班の研究活動を紹介します。

「ツルの十代組」班の研究活動

研究課題「鳥インフルエンザの正しい知識を伝えるにはどうしたらよいか？」の解決に向け、クレインパークや出水自然保護官事務所、鶏肉加工会社から、鳥インフルエンザの正しい知識や防疫体制について調べました。その内容を基に、ツルフェスタ（ツル関連地域行事）の際に、観光バスの中で説明したり、自作のパンフレットを配布したりしました。生徒の説明を聞いた観光客は、感心した様子で、称賛する言葉をたくさんいただきました。こうした反応から、生徒たちも大変やりがいを感じることができました。

「出水知らせ隊」班の研究活動

研究課題「ツル以外の観光名所をPRするにはどうすればよいか？」の解決に向け、ツル以外の観光名所（出水麓武家屋敷、八幡神社、出水駅など計7か所）に、自作のインスタパネルやスタンプ

ラリーを企画・設置するなど、観光地の紹介及び観光を楽しんでもらう方法について工夫をしました。生徒らが作成したインスタパネルがSNSにアップされたり、スタンプラリーの応募が寄せられたりするなど大きな反響がありました。生徒らも、その効果を実感することができました。



【インスタパネル設置】

「リトルクレイン」班の研究活動

研究課題「ツル関連の名産品をPRするにはどうすればよいか？」の解決に向け、地域の洋菓子店とコラボし、「鶴COMEクッキー」を開発、販売しました。【出水ブランド品評会】さらに、この商品は、出水ブランドとしても登録され、様々なイベントで販売されたことで、生徒たちは大きな達成感を得ることができました。



【出水ブランド品評会】

9年生の7月には、「卒業ツル論文発表会」を実施しました。各班の研究における工夫や苦勞、学習活動に因る効果の検証等が発表され、生徒らの自信に満ちた表情から、社会参画意識の高まりが伝わってきました。

おわりに

「社会参画」：地域と共に探究の道を歩む

社会参画意識を高めるには、地域と探究のプロセスを共有することが有効だと考えます。そうすることで、地域の課題が自分の課題となり、社会参画意識が徐々に高まっていきます。そして成果が得られたとき、地域に貢献できたという満足感や喜びが芽生え、社会参画意識の更なる高まりにつながるものと考えています。

「社会に開かれた教育課程」の柱：「ツル科」

本校は、「ツル科」を教育課程の柱に位置付けて社会に開かれた教育課程を具現化しており、「ツル科」の学習を柱に、今後も学校教育目標の達成を目指していきます。

最後に、「ツル科」学習を終えた生徒の感想を紹介します。

「ツル科」を振り返ると、人との接し方や思考力、想像力など様々なことを自分のものにしてきたと思います。臨機応変に考えて動く、周りの状況を見て動くことの大切さ、社会性、信頼すること・されることの責任など、まだまだたくさんの学びがありますが、この「ツル科」を通して、1歩、いや10歩、いやいや30歩、いやもっと…、自分にとって「ツル科」は、かけがえのない、成長の起源であることに気付きました。